日本大學農獣醫學部校友會々報

発行所
日本大学農獣医学部
校友会
編集発行者
会報発行委員会
印刷所
東京電工KK

学部祭のお知らせ

第一回三茶祭を来る十月三十一日より十一月三日に当学部にて行うことになり、今年は特に「三茶祭」と名も新たに企画し、各学科共に充実した内容をもつよう努力し、学部発展が目に見えるようでありましょう。我々は単に祭気分ということなく、祭の中にも学術面、文化面、体育面とそれぞれの基本線をもち全体的に統一したものにしようと努力している次第です。内容は、

学術部

農学科	環境と植物
農芸化学科	空中に浮游する細菌群、食品に含まれる添加物の研究 土壌中の窒素について 植物にケミカル・コントロール（その他）
獣医学科	一般臨床検査 犬の皮膚病 消化器系について 奇形胎子 生殖器 炭疽病、サルモネラ症 （その他）
畜産学科	誘びゆく農民的畜産経営
農業経済学科	出嫁ぎの問題について
林学科	日本林業の状態 林産加工の用途について
水産学科	科海上事故の汚点練製品の利用法 熱帯魚の生活
農業工学科	農村計画
食品工学科	包装関係 各サンプル実験ドーナッツ（模擬店にて販売）
拓植学科	マレーシア調査発表 コーヒーショップ
教養学科	無し

文化面

茶道、音楽部、写真部、弁論部、動植物研究部、能学研究会、謡曲部の各々の力作を発表し、体育部は、腕によりをかけて、模擬店経営にあたって、大いに雰囲気を盛り上げようと努力しています。

なお、十月三十一日には学部祭として当学部周辺を仮装行列を行い、他に講演会、芸能祭等多くの催しを行います。この三茶祭を機会により学部の発展を計り、校友会員目の皆様とも、密接化を計りたいと望んでいる次第です。

一、前夜祭（仮装行列）……学校周辺
　日時　十月三十一日（日）PM二、〇〇～PM四、〇〇
一、実験生物慰霊祭講演・映画……本学内
　日時　十一月一日（月）AM十、〇〇～PM五、〇〇
一、芸能祭・学術研究発表会……本学内
　日時　十一月二日（火）AM十、〇〇～PM四、三〇
一、芸能祭・のど自慢大会・学術講演……本学内
　日時　十一月三日（水）AM十、〇〇～PM五、〇〇
一、学術・文化展示発表・即売会……十一月一日～十一月三日迄

新設食品工学科も諸先輩や関係者御一同の御験をもちまして明春第一期生を巣立たせるまでになりました。

皆様方の友とさせていただくべき校友会の準備も徐々に進めておりますが、会の名称、会則などは卒業式後に行なう謝恩会の席上にて正式に決定し、会を発足させたいと考えておりますので、決まり次第、この紙上を拝借して御報告申し上げたいと考えております。

次に教員陣容でございますが、化学工業界の第一人者工学博士八田四郎次先生を顧問格として種々御指導をいただいております。尚、現在の専任教員は、斎藤義緒主任教授を始め宮判信一教授、唯野哲男教授、堀木英男助教授、横瀬敬七助手、木村貞司助手、伊藤喜晋助手、梅沢勝正副手、森明子副手、吉沢恵子実験助手、以上の通りでございます。本学科における教科内容については、前回において大部分を御知らせ申し上げましたが、その後四年次の学生のために、新たに御願いした学科目ならびに講師の先生方は次の通りです。

（敬称略）

市場論（根岸勉治、岩瀬延二）包装論（上野三郎）レオロジー（佐藤寿）、なお各先生方には精魂をこめた教育指導をしていただいております。

就職状況については、教員、校友各業界の方々の御力添えで食品関係の企業界に順次決定しております。十月十五日現在の就職決定先の主なるものは次の通りです。

雪印乳業・雪印食品・ミヨシ油脂・東洋醸造・野田醤油・帝国食品・山崎パン・三立製菓・キューピーマヨネーズ・中村屋・銀座アスター食品・竹沢蒲鉾工業・日本ビタミン油工業・大東カカオ・湘南食品工業・山王工業・アートコーヒー・パニー食品・東京鶴辺製菓・鶴沢ハム・前田香料・坂本物産・新不二屋製菓・山陽コカコーラ・磯野食品・三和油脂・第一屋製パン・明治牛乳・東洋水産・北部乳糖・三洋食品・日本飲料・第一冷蔵・セフンアップ・昭和牛乳・東京ミートチェーン・久保田食品・小岩井農牧・東京果青・紀文・日本酒性食品・小島屋乳業・帝人殖産・昭和宣・第一商事・小諸産業・大東不動産・多摩食肉センター・久本製菓・全国酒鮮協同組合連合会・精養軒・帝人食品・中屋・アサヒ衛陶・ゼネラルフーズ・（順不同）

この他教員、進学、自営などを合せ、ほとんどが決定、待ち等の状態です。

新卒業生のため校友諸兄の一層の御指導を御助力を賜わり度く宜敷しく御願い申し上げます。

食品工学科分会

農経校友会は、今年三月五十四名の新会員を迎え、会員総数は約五〇〇名に達しました。五年前の会員数は三〇〇名でしたから、この五年間の成長率は六〇％でまさに高度成長であります。現在の学生数は一年一七六名、二年七五名、三年七八名、四年五六名、計三八五名ですから、これらの学生が卒業する四～五年先きの本会々員は、現在の二倍となり一、〇〇〇名を突破するものと思われます。このように量的増加はめざましいものがありますが、質的向上をも期すべく昨年来学科の体質改善に取り組んでおります。詳しくは農経校友会々報第二号に掲載してありますので御覧下さい。

（1）会報第二号発刊さる

今春発刊の予定でありました会報第二号が、大部遅れましたが十月一日に公刊できましたことは慶びに堪えません。編集は学内校友と学外校友で編集委員会を組織し、内容の充実をはかることになっておりましたが、第二号の編集は事務局で行ないました。編集方針は大体創刊号に準じましたが、論説、時評など内容の充実につとめましたので急乖御講読下さい。

今後は創刊号、第二号を土台としますます充実して参りたいと思います。つきましては会員諸兄の御意見、御批判を歓迎致します。そしてゆくゆくは農経色豊かな会報に育てゆく所存でありますので、今後とも御協力のほどお願い申し上げます。なお引き続き第三号の準備を致しておりますので、十一月十日頃までに寄稿いただければ幸いです。

（2）来春卒業者の就職状況

経済不況の影響が来春卒業者の就職状況悪化となって現れております。農経学科は本年も求人数が多いので安心しておりましたが、試験の結果振り落された学生も少くありません。九月末現在の状況は次の通りであります。卒業予定者五十六名中、就職希望者は五十名であります。このうち決定したのが二十五名（五十％）であり、現在内定（第一次試験合格）が十五名、残り十名はこれからというところでありますので、校友諸兄の紹介を切望する次第であります。

（3）学部祭案内

来る十月一日から三日まで恒例の学部祭が行なわれます。農経校友会では十一月三日を校友接待日とし、校友会予算の範囲内でできるだけのおもてなしを致しますので、是非家族づれでおいで下さい。お待ち致しております。なお農経関係の催しとしては次のようなものが計画されております。

（A）学術展示、テーマ「きびしい社会きの実態」、（B）夏季農村実態調査ルポ、（C）他大学招待セミナール（十一月三日午前十時～十二時）、（D）書籍及び果実の即売、また学生会主催の（a）講演会、女優、望月優子氏の「芸能生活の体験」（十一月一日午後一時より）、経済企画庁経済研究所長、林雄二郎氏の「日本経済の展望」（十一月一日、午後二時より）、東京教育大学教授、菱沼達也氏の「経済と農業技術」（十一月三日午前十時より）、（b）五党演説会、テーマ、「農業政策の現状とわが党の政策」（十一月三日午後一時～四時）などが計画されておりますので、是非御来校の上、御覧の研究成果を批判かつ励ましていただきたく思います。

各科校友会の動き

農業工学校友会

これら学生の就職状況は、現在の所あまり芳しくありませんが、大森学部長先生を始め、関係教育員の御助力によって除々に好転致しておりますが、会員諸兄からも後輩のため就職の窓を開放して御世話下さるよう、ここにお願い申し上げます。

昭和四十年度総会および懇親会の開催につきましては例年の通り十一月三日に実施したいとただ今計画中です。農獣医学部では三号館増築に引き続き、一号館および五号館の改築を致しておりますが会員の皆様！お元気で頑張っておられることでしょう。農業工学科も日増しに発展の一途を歩んでおります。この前の会報にてお知らせしました通り、増築された三号館の二階に教授研究室三室、中央研究室一室の他、地下二階には土質力学及土壌物理学並びにコンクリート関係の材料実験室、実習室が用意され、教授の研究実験や学生実験が行なわれて居ります。

また農業工学科教授陣容についても梅平昌司教授を主任に大校芸賢教授、鶴谷卓三教授、白岩隆己専任講師のほか農業工学専修第一期生の社厚志、世良田和寛両君が残ってくれましたので、これらの専任の教員が一丸となって後進の育成に当っております。

このほか非常勤講師にはエネルギッシュな山田保次郎先生（宇都宮大学教授）、阿部弘先生（農林省農業機械課）、土田悦郎先生、三木茂先生、柴崎達雄先生（資源科学研究所）のほか日本大学理工学部より栗津清蔵先生、堀好文先生、宮川青郎先生等の御援助を得て、日日に力強く前進を続けております。農業工学科の将来に期待して下さい。

今年度の四年次学生は農業土木学専攻生四十九名、農業機械学専攻生四十九名、農業工学科生三十九名の計八十八名です。

今年度大学祭三茶祭のうち、農業工学部門では、農業土木学専攻生の学術展示のテーマは「農村計画」特に鬼怒川流域部を中心とする水問題、土地問題、機械導入の問題を中心として」を計画致しております。これらの内容は　1、土質調査　2、かんがい排水施設　3、区画整理　4、水利施設等についての研究発表をパノラマ形式で展示される予定になっています。これは農業工学専修第一期生の茨城県職員、平倉孝裕君の御助力によったものであります。他方農業機械学専攻生の学術展示テーマは「農村計画の中における農業機械の導入と、それに伴う農村の変化」のほか主な農業機械の分解組立実演などが計画されております。

次に会員名簿関係に関する件のお願いですが、転勤、転職などで勤務先が変更されたり、また現住所変更、電話番号の変更などがありましたら至急事務局まで御一報下されたく特にお願い致します。

尚、今年度は幹事の改選期ですから、各期で任意の方法により幹事を選出して頂くことになっております。各期のクラス会の時などに御話合いの上、農業工学科が益々発展するよう御援助下さるようお願い致します。

以上、お願いばかり致しましたが、農業工学校友会がこの事務局を、キイ・ステーションとして会員相互の親睦機関であるよう、我々事務局員は日頃頑張っております。

会員の皆様、どうか御自愛専一に益々御発展されることを切望致しております。頑張って下さい。では大学祭に御目にかかりましょう。（事務局記）

林学科校友会

林学科全員で約百九十名です。

残念なのは、川村先生が、すっかり退職されて、その後は、前農工大農学部長であられた中村忠雄先生が教授に入られて担当し、又前林業試験場長斎藤美鐵先生が理学の面で、教授の席におられます。

造林の面では栗田先生がおられますが、学生指導委員長の要職を兼務している関係で、中々多忙、ふうふういっていますから……諸君にして心あるならば郷土のうまいものでも持って歓問、激励に来て下さるよう願います。

永遠の青年養田先生は、経営の面でよく学生の発例をみて下さり若手の佐々木先生や、片岡先生はこつこつと学位論文づくりの実験に余念なし、といったところです。

○

さて、諸君に懐しい、あの木造の第六実験室はどうの昔につぶされてしまい、あすこには、今、四階建の大校舎が建っています。

林学科もだんだん郊野から追いあげられて今では本館の四階、頂きに近く部屋をもち、晴れた日には、大東京をはるかに全望することが出来るのです。

この本館に続いて一号館を目下増築中で、来年の四月までには、完成するでしょう。

農場の細野さん、山の愛ちゃんみんな元気です。たまには愛妻や子供たちをつれて尋ねたらいかがです。うまいものはありませんが、きっと、そこらあたりの岩かげに貴君の青春の思い出が、ひそんでいることでしょう。ただしその時は先にこちらに一報して置いて下さい。

○

朝夕、めっきり涼しくなり、山の紅葉も深くなることでしょう。学期は前期の試験を終り、後期に入り、ようやく落着きをとり戻したところです。

ともうすぐそこに学部祭がやって参ります。

ベトナム戦争だ、印パ紛争だ、インドネシアのクーデターだと、風雲ただならぬ東南アジアの状勢をうれいつつ、今年もはや大部分を終らんとしています。

校友諸兄の御健勝を祈りますがただ、健康で無事平穏だというのでなく、いつも前向きの姿勢であれ、積極的であれ、若々しくあれと願います。その妻を心から愛し子供の教育を考え、そのためには宴会費を節約し、頽廃代を倹約する、よき夫であり、よきパパであることを祈りつつ。（加藤）

各科校友会の動き

慌しい歳月の流れに校友諸兄にもさだめし御繁忙のことと存じます。校友会活動も皆様方の御協力を賜り大きく発展して参りましたが一層の親睦を深め度く存じて居ります。

総会通知

昭和四十年度農学校友会総会を来る十一月三日（文化の日）午後三時より大学において開催する運びとなりました。校友の皆様には万障繰合せの上御出席下さるよう御案内申上げます。尚懇親会はこの二、三年行わず懇談会形式で大学内で行って居りましたが本年は席を新たにレストラン「ひらかわ」に於いてカクテルパーティーを行いますので会員の皆様には御家族おそろいの上御出席下さいます様お願い申上げます。当日は恒例の大学祭も最終日になって居りますのでよろしく御高覧の上御指導を賜われば幸甚と存じます。

就職状況

過去数年求人ブームの好景気の状態から非常に明るい年を送って参りましたが本年は景気後退から幾分出足が鈍って居ります。これには大学当局一丸となって就職開拓に専念致して居りますが校友諸兄にも後輩のためよろしく御協力下さいます様お願い致します。

農学科は来年三月卒業する予定学生数は十月十五日現在一二五名であり、うち三名は自営残り一二二名が就職希望で決定致しているもの青果　関係一名、地方公務員二名、その他民間会社に数名内定致して居ります。又就職希望者の半分以上は教員希望でこの方は毎年決定されるのが年度末になるので現在は決定して居りません。

農学科現状報告

農学科の主任教授として学課改正及び設備充実とうに努力してこられました江口教授が年度始め勇退され後任として遠藤教授が主任として引継がれ新たな構想の共に出発致して居りますが校友会として任講師一助手二の計十名であります。そこで兼ねて懸案されて居りました教授研究室等の充実を計るべく努力致して居りますが大学では学生数の激増を考慮して新校舎とうの増築を着々と実行して居ります。

作物園芸第一第二遺伝育種各研究室は新館竣工のため移転致し現在仮住いを致して居ります。何れ農学科の研究室も鉄筋の完備された研究室に入れることを期待し努力致して居りますので校友の諸兄にも連絡等いろいろ不便をおかけ致しますがもうしばらく御辛抱願います。

次にこれも毎回お知らせ致して居りますが研究圃場の件については今だ吉報までには至って居ません。農学科としては教授研究及び学生の研究指導の見地から今日まで教室と至近距離の相当面積の研究圃場を求めて居りましたが時間的経過が進つにつれ社会状勢の変化及び大学当局の指導計画とうの状勢を考慮して現在いろいろ審議している状態であります。又一方藤沢農場の改善策もいよいよ発化されて居り、研究、生産、実習とうの総合的見地から改善されることと存じます。校友会の皆様には積極的に御協力賜り進めて居りますが一層の御支援をお願い申上げます。

名簿の発行について

本年末には名簿を発行致し度く準備を進めて居りますが住所、勤務先等の名簿登録を新たにお願い致しましたのでお忘れなく農学校友宛に御連絡下さい。

農学校友会

満喜葉会

例年行って学園祭の名物となり又校友懇親の実をあげてきた満喜葉会のパーティは大学充実五ヶ年計画（昭和四十三年度達成）が本年度から急ピッチで行われだしたため学生会の展示その他に必要な教室が非常に不足し、実行委員会と再三協議しましたが残念ながら適当な場所がなく今回はやむを得ず中止する。ことになりました。当日総会を開くことを予定しておりましたが忘年会を兼ねて本学部校舎で行うつもりですから御了承下さい。

展示の方も圧縮されていますが御来校の方々は是非研究室にも御立寄りになってその充実振を御覧頂きたいと思います。

○名簿の発行

満喜葉会だけの名簿を発行してから満四年になりますので明春迄に新しい名簿を作製配布する計画です。住所・勤務先について必ず同封葉書を御返送下さい。同窓の方々の動向は地域別には比較的わかり易いのですが地域が異ると会事務局に問い合すのが一番確実でそのためにもしっかりした住所録を供えつけておく必要があります。

○地域別の懇親会について

去る九月下旬佐々木、梅老の二人で就職、学生募集の件で関西を廻りましたが和歌山・大阪周辺の方々が非常に団結しておられるのを拝見しました。その折一年に一度は各地を訪ねるようにとの御希望で大変うれしく、あらゆる機会に学校に残っている会員が皆様に御会いして活躍の状況を聞かして頂くよう努めます。右の地区では新入社員の歓迎会を毎年やって下さっておりこれらのことが社会に出て行く後輩としてどれだけ力強い支えになっているか計り知れません。

清君（昭和二十六年卒、和歌山県庁畜産農務局）が大阪周辺では佐々木　満君（昭和三十六年卒・全購連・大阪市　北区堂島　三の二一）が中心となってまとめて下さっていますので右の地域に行かれた方はこの両君に御連絡下さい。

○斉藤　道雄先生の古稀の祝について

旧制並に昭和三十四年以降の卒業の方々が御教授頂いた斉藤　道雄先生は芸々御元気で我が国畜産界の最高権威として御活躍してをられますが明年三月満七十才の誕生日を迎えられます。色々の方面に関係されてをられますので教え子も多く各方面で古稀の祝賀会が計画されることと思いますが我々も先生の御健勝を祝し今後の御活躍を期待し、是非盛大な祝賀会を行いたいと念願しております。

（文責・佐々木）

紫友会

紫友会総会　去る九月十五日の幹事会で来る十一月三日開催と決定した。会場は私学会館（国電市ケ谷駅下車三分）午後六時より会費七百円。東京近辺の方は友人お誘い合せてどうぞ御参集下さい。なお同幹事会で年一回会報（活版印刷）の発行の案が可決された。本会も会員数八百二十二名の多きに達したので連絡事務の合理化のため宛名印刷機を購入、ご覧のようにこの会報連絡より使用することになった。しかし事務局の調査では二百名近い人が消息不明、通信不能のため連絡が出来ない状態である。毎度申し上げることだが今後、転居、改姓、転勤、転職などの際には必らず事務局まで御連絡下さい。

浅野助教授、米国へ出発　先号にてお知らせしたように大学の海外派遣研究員として米国コーネル大学に出張を命ぜられた浅野氏は八月七日夜、学友、校友多数の見送りの中を羽田を出発、ハワイ、サンフランシスコ、ロスアンゼルス経由の後、米大陸横断バスでニューヨークに着き、八月二十一日コーネル大学のあるニューヨーク州イサカに無事到着した。同大前で約十ヵ月間硝化細菌の研究に従事し、欧州経由で来年八月帰国の予定である。

農芸化学部　不況下で就職戦線に大異変をきたしている。例年なら七～八割決定の今頃でもまだ四～五割ぐらいの線である。主な就職決定は協和醗酵、東洋醸造、キューピー、第一屋パン、山崎パン、木村屋、旭硝子、万有製薬、日本製薬、エスエス製薬、純正化学、豊玉香料、理研香料、カネボウ化粧品、菱和飼料、日東海藻、石井鉄工所、自衛隊といったところである。石井鉄工所とは農芸化学には耳なれない名だがタンク装置製造では一流の機械メーカーである。今回汚水処理装置開発のため初の農芸化学採用となったもの。採用決定の岡田君は通産省醗酵研究所にて卒論研究中、人物、学力、努力が上司に認められて推せんされ受験して見事パスしたものである。本学科学生が真面目によく勉強するので学外で大変評判がよいこと、農芸化学の技術の新しい開発面を如実に示す好例なので御紹介しておく。また江藤君は難関の国家試験をパスして本学科で初の防衛庁入省となった。

学部祭　例年の通り大学祭の一環としての学部祭が十一月一、二、三日の三日間学部で開催される。今年は増築工事の真最中で会場は手せまだが後輩の活躍ぶりを御覧頂きたく、新校舎見物を兼ねてぜひ御来校下さい。

食糧会発足す　食品化学研究室（旧食品栄養化学研究室）のOBOG（?）からなる親睦会が農化一、二、三期生発起人のきも入りで去る六月末発足した。食糧会（くおっかい）と命名し、近々農産製造学専攻の先輩にも呼びかける。年一回秋に定期会合を開くとのことである。なおこの他の研究室でも卒業生の親睦会がそれぞれ開かれるようになってきている。

桜水会

桜水会各員各位に於かれては益々御健勝にて御活躍の事とお慶び申し上げます。

わが獣医学部ならびに桜水会の現況について御知らせ致します。

校舎・研究室

昨年末に三号館新築の完成により、三号館旧館の四階にあった漁業学研究室（酒井教授・鈴田助教授・金原助手）が新館の二階に移転し、代って水産製・業学研究室（清水教授・塩谷教授）が四階に入った。また新館の四階に新たに水族生理生態学研究室（川本教授・末広教授）が設置された。木造校舎の四号館には水産増殖学研究室（田口助教授・小橋副手）、水産生物学研究室（門田助教授・広瀬助手）があるほか、水産資源学研究室（東助教授）、水産実習室（成瀬講師・穿月助手）等があり、大学生の急増対策および設備充実に対処して旧一号館の木造建物を取こわし、地下一階地上三階の教室（一、〇一九坪）が、また三号旧館の裏に五号館（五四四坪）、三号新館（二、一一九坪）の横には大講堂（三七二坪）がそれぞれ一～二年のうちに建設される計画であると聞いている。

「十年一昔」という諺があるが、下馬の校舎も昔日の面影が一変して、近代的なビルの中で講義を聞く学生諸君はさぞかし……と思われる。これらの校舎が完成すれば、すべての建物は鉄筋建（総坪数五、七二三坪）となり、その威容は目をみはらせるものがあると思われる。

練習船

我々が学生時代から夢にまで見続けてきた練習船もようやく誕生した。思えばずいぶんと長い陣通ではあった。

去る九月十四日理事会において承認され、十月十四日船舶売買契約書に押印された。

この購入した船は第十二全功丸（七〇二・九六ㅌ）で昭和三十二年金指造船所にて建造されたものである。早速練習船として改造されるが、乗組員は学生・教員の定員三十名、船員二十八名、合計五十八名とし、海洋観測器具一式を積載するのを初め漁撈実習設備・冷凍設備をも一新する予定である。

この練習船の新らしい名前は、大森学部長を通じて会員、幹事に命名をお願いしており、近日中に決定されると思われる。

この練習船を誕生させて下さった吉田会頭・永田幹事・大森学部長の各先生を初め工藤会長等関係省一同に対して深甚なる感謝の意を表する次第である。

臨海実験所

思い出の多い馬堀の横須賀臨海実験所が理立になる運命となり、実験実習を充分に行なうのが困難となってきたのは誠に淋しいことである。

しかし学部当局の好意により、昨年より新たに実験所の敷地として房総・伊豆地方に求めて選定しているが、有力な候補地として下田の郊外をチェックして話を進めている。

また詳細に説明する段階まで進展していないのが残念であるが、敷地二千～三千坪で、その中に実験所約一五〇坪、学生寮約三〇〇坪（約一〇〇名収容）の建物を建設すべく鋭意努力中である。

諸兄地に一日も早く、詳細にわたって御説明の出来るのを楽しみにしている。

学科の体質改善

数年前より農学教育の体質改善について各学科とも学科目の改正を考えているが、水産学科でもその強化策実をめざして打り、その骨子は次の如き事を考慮しながら検討している。

従来はとかく生物学に単位が偏重していたが、これを三等攻とも平均化して教育し、より有能なる人材を送り出す事を考えている。

即ち、各専攻共通科目に工学概論・臨海実習・海船等を加えるとともに、漁業学専攻においては漁具学・計測装置・漁法生物生態論、水産製造学専攻は水産製料学・公衆衛生学・冷凍機械学・水産増殖学専攻でも魚類学・飼料学・水質学等を増設し、総論は水産学通論として一本化し、水産動物分類・解剖・生理・生態・病理・植物学等の講義および実験は整理統合するなど新らしい時代の要求する方向へ進むべく努力を続けている。

この体質改善は明年度より実施する方針と聞いているが、これらを土台にして、わが水産学科もさらに大きく発展することを祈念するものである。

大学祭

例年行なわれている学部祭が来る十一月二日より三日間実施される事になっている。

今年は前述した如く建築が行なわれている関係上、会場は狭分手狭なようであるが、後輩諸君等は大いに張切っている様子であり、御多忙とは存するがこの機会に御来校下され、後輩の労をねぎらったり、学生時代のよき思い出にふけったりして戴けたならば幸いである。

桜水会員諸兄姉の御出掛を関係者一同心より御待ち申し上げております。

（新田記）

角笛会

増築成は新築と、ここ二、三年本学部も急がしい。そして旧東獣時代の建物は太講堂を残すのみとなったが、これも間もなく新講堂に代る計画である。したがって昔を知る人々には唯々驚くことであろう。全くの話、毎日通勤している私共でさえ昨日と今日の違いが大きいのには声驚うのであるが、ともあれ在教職員、在学生は元より卒業生にも喜こばしいことである。

また、校舎の新築に併行して或は新築に先行して行かんと教員も日々教育に研究に努力し各機関や学界にその成果を発表しつつある特に本年春は遠学部にて日本獣医学会が催され盛会であったのは在学生、卒業生の御協力の御かげであると感謝している。さて各研究室ではそれぞれの教授の指導の元に助手・副手・研究員・研究生とともに協力して様々の研究に従事し且多勢の在学生をあづかって教育をも行っているのである。即ち、細菌学研究室では大熊教授の指導によって乳酸菌の研究並びにジスステンバー中和抗体の研究

病理学研究室では石井教授の指導でトキソプラズマ症の研究

第二病理研究室では呉教授の元で、肉腫の研究と肝硬症の研究が行われている。

解剖学研究室では須川教授の元で鳥類の知覚神経系相の構造と鼻粘膜の微細構造に関する研究

衛生学研究室では反芻動物の胃内微生物に関する研究を細谷教授の指導で行い

伝染病学研究室では豚の腸炎ウイルスに関する研究を小堀教授の指導で行っている。

繁殖学研究室では常包教授の指導で牛の子宮内膜の機能に関する研究と牛の胎児の発育に関する研究が積み重ねられている。

内科学研究室では薬師教授の指導でフィラリア症に関する研究として肝機能の問題と呼吸ガス代謝の研究が始められている。

外科学研究室では木全教授の指導で従来続けて研究してきたバルビタール麻酔に加えてフローセン麻酔の研究が始められた。

他生理、薬理の研究室もそれぞれユニークな研究が行われている。

右の如き各研究室の成果はこの秋の日本獣医学会（於東大）・学術研究発表会（於本学部）・東京獣医畜産学会（於本学部）・日本臨床獣医学会小動物学会（於神戸）に各々発表される。

拓友会

朝日無線電機、高岳製作所、栗精食品、東京電機精機、社会福祉主事などに活躍しております。第一回卒業予定者は一六名でありますが、就職決定者は一六名となっております。新会員の就職先は、グリーンスタンプ、自動車セールス、東京鋼電機、マレーシヤ玉乗有限公司、ブレーキライニングのマニラ駐在員、製菓会社、新井商事、酒類販売会社、協和組（土建）、日本農薬、東神硝子、日本製薬、エスエス製薬、純正化学、

九月二〇日には駿河台山の上ホテルにおいて、拓友会代議員会を開催いたしました。役員約三〇名出席しいろいろと懇談協議し盛会裡に終了致しました。この代議員制は、今回初めて採用されたものであります。

九月には カナダ移住開食団長として活躍されました工藤正城会長も無事的国、木下善興氏も哲学、美学の研究にギリシヤ、ドイツなど欧州を訪問近々的国の予定であります。

本年三月には復活拓植学科の第一回卒業生一四名を送り出しました。これで正会員一、三六〇名となり、準会員（学生）三一〇名となっております。新会員の就職先は、グリーンスタンプ、自動車セールス、東京鋼電機、マレーシヤ玉乗有限公司、ブレーキライニングのマニラ駐在員、製菓会社、新井商事、酒類販売会社、協和組（土建）、日本農薬、東神硝子、日本製薬、エスエス製薬、純正化学、

後期になりますと、大学は何やかやと忙しくなって参りますが、校友の各位も御健勝で御活躍のことと思います。

昭和四〇年度は、校友会にとっても、また拓植学科にとってもいろいろなことがありましたのでご報告致します。

本年三月には復活拓植学科の第一回卒業生一四名を送り出しました。これで正会員一、三六〇名となり、準会員（学生）三一〇名となっております。新会員の就職先は、グリーンスタンプ、自動車セールス、東京鋼電機、マレーシヤ玉乗有限公司、ブレーキライニングのマニラ駐在員、製菓会社、新井商事、酒類販売会社、協和組（土建）、日本農薬、東神硝子、日本製薬、エスエス製薬、純正化学、

九月二〇日には駿河台山の上ホテルにおいて、拓友会代議員会を開催いたしました。役員約三〇名出席しいろいろと懇談協議し盛会裡に終了致しました。この代議員制は、今回初めて採用されたものであります。

九月には カナダ移住開食団長として活躍されました工藤正城会長も無事的国、木下善興氏も哲学、美学の研究にギリシヤ、ドイツなど欧州を訪問近々的国の予定であります。

九月二〇日には駿河台山の上ホテルにおいて、拓友会代議員会を開催いたしました。役員約三〇名出席しいろいろと懇談協議し盛会裡に終了致しました。この代議員制

お願いして、一〇〇名にしたい所存ですのでよろしく御願い申上げます。

九月には カナダ移住開食団長として活躍されました工藤正城会長も無事的国、木下善興氏も哲学、美学の研究にギリシヤ、ドイツなど欧州を訪問近々的国の予定であります。

九月二〇日には駿河台山の上ホテルにおいて、拓友会代議員会を開催いたしました。役員約三〇名出席しいろいろと懇談協議し盛会裡に終了致しました。この代議員制度は校友の動向を把握し、あげて名簿整理に万全を期すために設けられたものであります。会員各位の協力により近い将来に、完全な名簿を出したいと思いますので、よろしく御協力をお願いします。

また入学勧誘のシーズンも迫ってまいりましたが、本年は校友各位のご尽力により、学内でも下ップレベルに達し、二〇三名の合格者を出しました。四二年度とそは、吾が拓植学科の飛躍の年であります。皆様方の御協力を切望致しますから、よろしく御願いします。

（事務局）

来年度から拓友会幹学会も研究中であります。

実施の際にはよろしく御協力を御願いします。このように書いて参りますと、校友各位に御願いばかりで恐縮でございますが、先輩として後輩の面倒をみるのも、学科、拓友会のためでありますので何卒よろしく願います。

（事務局）